



コロナ対策に予算を

コロナで懐に？

持続化給付金の支給が遅々として進んでいない。

実は持続化給付金の支給の業務は「サービスデザイン推進協議会」(電通、パソナが出資)が七六九億円で受託。

その九七%七四九億円で電通に再委託。その電通もパソナ(会長竹中平蔵)等に再々委託。過去に電通、パソナは自民に多額の献金。

「こうすればバッチリ自民党にお金が回る」と首相に囁いた輩がいたのか？

Go To キャンペーンでも

第一次補正予算にはコロナ後を見据えた消費喚起策「Go To キャンペーン」一・八兆円がある。国内旅行割引等の事業だ。何と総予算の六分の一、三千億円で

この業務の委託先を公募。自民はここでも甘い汁を吸おうと云うのか？旅行なら各地の観光協会を支援すれば良いと思う。

コロナ対策に予算を

病院はコロナで赤字。一時金カット、雇い止めの話も聞こえてくる。コロナ患者を救おうと頑張った結果がこれでは医療機関が内部崩壊する。

「コロナ後の旅行」を云々するのではなく、医療機関の援助が急務だ。

設備を拡充して発熱

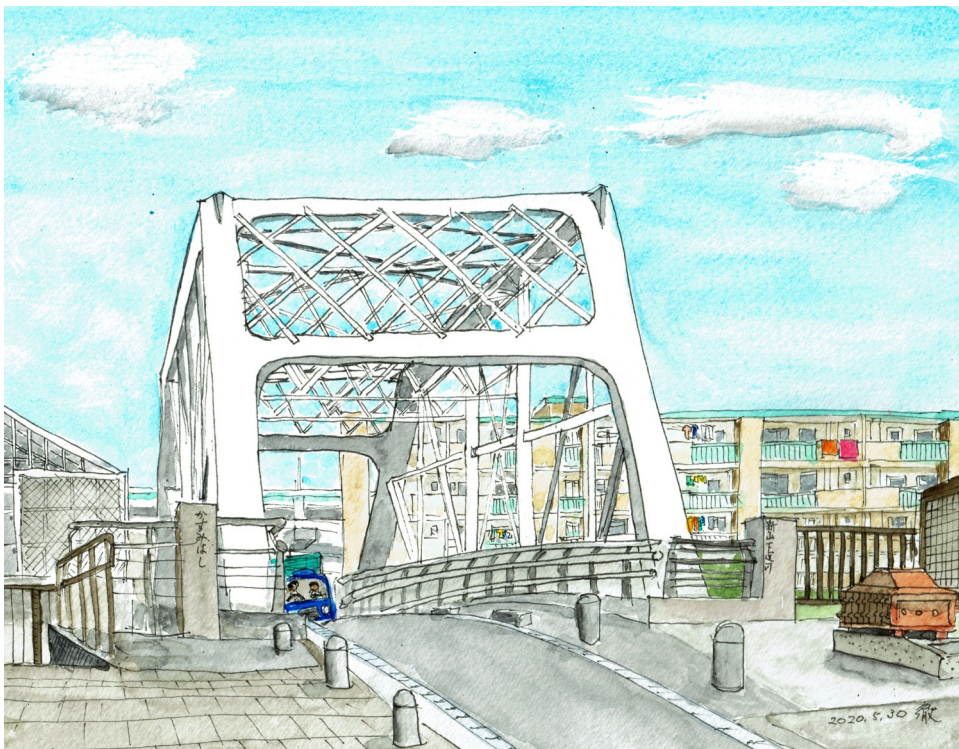
外来を設けたり、症状の無い人にも広くPCR検査体制を拡充すること、更に、N95マスクや防護服を確保する為に、国が医療機関を直接援助すべきでは？。あなたはどう思われますか？

霞

橋

神奈川県横浜市中央区新山下二丁目

二〇二〇年五月



本牧A突堤と新山下町を繋ぐ「霞橋」は技術史上、記念すべき橋だそう。

この橋は「錬鉄」製。

「鋼鉄」を作る技術が無かった時代の物。炭素分が多くて脆い鑄鉄から炭素を減らすのに放射炉で熱して融かした。炭素分が減ると粘りけが増すので、反射炉内をパドルでかき回し、一部を取り出し、その塊を叩いて固め、素材にしたという。

この橋は英国で作られ、一八八九年(明治29)に隅田川に架けられた。錬鉄製として歴史的記念物だそう。その橋はやがて鶴見の跨線橋に使われ、それが、又、転用されたという。

建設当時は製作誤差が大きく、調整に使った楔(右の図)が橋の中央付近にある。今は誤差が小さくボルトナットで締め付けて作る。

